

2026 年 1 月 19 日

報道関係者各位

マニユライフ生命保険株式会社

マニユライフ生命、グローバル発の 「長寿経済インスティテュート」を日本で展開 ～研究・イノベーション・パートナーシップを通じ、より長く、 健やかに、お金の不安なく生きられる社会づくりを後押し～

マニユライフ生命保険株式会社（取締役代表執行役社長兼 CEO：ライアン・シャーランド、本社：東京都新宿区、以下「マニユライフ生命」）は、1 月 19 日（月）より、昨年グローバルで発表した「Manulife Longevity Institute（マニユライフ 長寿経済インスティテュート）」を日本で展開いたしました。グローバルで 2030 年までに 3 億 5 千万カナダドルを投資し、研究・ソートリーダーシップ、イノベーション・提言、コミュニティ・パートナーシップを結集して、人々がより長く、より健やかに、そしてお金の不安なく生きられる社会の実現を目指します。本インスティテュートを主要な市場である日本に展開し、世界の知見を日本の課題解決に生かすとともに、ここで得られた研究成果をグローバルにも共有していきます。

背景

日本は世界トップクラスの長寿国でありながら、健康やお金、暮らしの質への不安は根強く残っています。マニユライフ生命は、グローバルのインスティテュートの一環として、金融不安やお金に関する相談をしづらい文化的な壁といった日本特有の課題に向き合います。そして、人生 100 年時代に個人や地域社会が前向きに生きるための具体的なヒントと、一緒に考えて行動する場を提供します。

主な活動内容

長寿経済インスティテュートは、グローバル共通の 3 つの柱を軸に運営しており、日本でも同じ枠組みで取り組みを進めます。

- ① 研究と知見をリード：長寿社会で人々がより豊かに生きるための理解を深め、その知見を社会へ発信
- ② イノベーションと提言：健康、ウェルビーイング、資産形成の準備を後押しする取り組みを推進
- ③ コミュニティとのパートナーシップ：知識の向上、公平性の促進、そして長寿に関する前向きな行動を喚起

グローバルの知見 × 日本での実装

マニユライフは長寿経済インスティテュートを通じて、各市場のお客さまや地域社会のニーズを最優先にしながら、グローバルな視点で知見を見だし、行動につなげていきます。さらに、世界・各地域・国内のパートナーとの連携を通じて研究を加速し、市場特有のインサイトを明らかにし、長寿に関する成果を実質的に向上させるソリューションを創出します。

- 北米の先進事例：MIT AgeLab（米マサチューセッツ工科大学エイジラボ）と共同開発した「長寿準備指数（LPI：Longevity Preparedness Index）」は、高齢期にどれだけ充実した生活を送る準備ができているかを、8 つの主要分野（社会的つながり social connection、経済 finance、日常活動 daily activities、介護 care、住まい home、地域社会 community、健康 health、ライフステージの移行 life transition）で測定する世界初の指標です。
- アジアの取り組み：世界経済フォーラムのオープン・イノベーション・プラットフォーム「UpLink（アップリンク）」と連携し、多世代にわたる経済的レジリエンス、公平かつ健康的なエイジング、生涯にわたる充実感の促進に資するスタートアップを支援しています。

日本での主な取り組み

日本の長寿経済インスティテュートでは、こうしたグローバルのコンテンツの紹介に加え、日本が長寿社会の先進国でありながら、長生きを必ずしも前向きに捉えていない側面に注目し、健康・資産・暮らしの安心につながる啓発や示唆を提供していきます。

日本独自の取り組みとして、慶應義塾大学大学院経営管理研究科の井上哲浩教授と、行動心理学と金融意思決定に関する共同研究を進め、日本人の老後の資金に対する不安を資産形成への行動にどうつなげていけるのかを明らかにしていきます。

取締役代表執行役社長兼 CEO のライアン・シャーランドは、「長寿は人々の不安ではなく、希望の源であるべきです。グローバルの長寿経済インスティテュートのコミットメントを日本の実情に合わせて発展させ、健康・経済・心理的なウェルビーイングを通じて、人々が『より長く、より良く』生きることを支援していきます。」と述べています。

共同研究を進める井上教授は、「日本の消費者は“お金の話はプライベート”という文化などが相談へのハードルとなっています。行動科学に基づく研究を通じて、人々が行動を起こし、より充実した高齢期を送るための方法を明らかにしていきたいと考えています。」と語っています。

なぜマニユライフは長寿分野をリードできるのか

マニユライフは長寿分野を主導できる強みを持っています。

- 保険数理（アクチュアリー）の強み：100 年以上の保険数理・リスク予測の知見と数千万件規模のデータに基づき、人々の寿命、健康、そして資産が時間とともにどのように変化するかを深く理解できる立場にあります。寿命だけでなく、健康・行動・金融資産がライフサイクルや世代を超えてどう関わり合うかまでモデル化しています。
- 世代を超えた資産の知見：長期・世代横断の視点で資産寿命を延ばし、退職後の生活設計から承継まで支援しています。
- 生涯を通じたソリューション：資産形成の初期から退職後の収入の安定、承継・相続まで一貫通貫でサポートし、100 年人生の各段階を「自信・継続性・安心感」をもって進められるよう後押しします。

■ 当社の取り組み／日本での主なプログラム[専用ウェブページ](#)の主なコンテンツ

当社のコミットメントは、グローバルおよび日本において、人々がより長く、より健康で、かつより高い経済的安定を確保しながら生活できるよう支援するために、当社が着実に実行している取り組みを明確に示しています。

●研究と知見をリード：

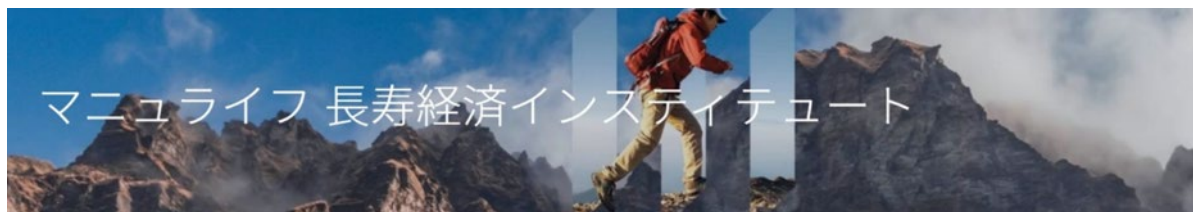
- 慶應義塾大学大学院経営管理研究科の井上哲浩教授との共同研究：行動心理学の視点から金融意思決定や資産形成への行動促進の示唆を探る
- アジア・ケア・サーベイ：日本を含む9つの国・地域で実施する健康・経済・心理面に関する実態を明らかにする調査
- 高校生の金融リテラシー調査：早期の金融教育促進のため、次世代の金融知識・理解の実態を調査
- 日本経済新聞社主催「世界経営者会議」：長寿社会の課題について著名な経営陣と問題意識を共有
- お金の安心と長寿に関するレポート：マニユライフの年次グローバル調査
- 長寿準備指数：長寿への備えに関する8つの指標

●イノベーションと提言：

- エコノミクス甲子園：認定 NPO 法人金融知力普及協会主催。高校生が金融・経済を楽しく学び、知識を競う全国大会を 2015 年からメインスポンサーとして協賛
- 世界経済フォーラムのオープン・イノベーション・プラットフォーム「UpLink」：長寿社会の未来を形づくる取り組み

●コミュニティとのパートナーシップ：

- 早期金融教育：中学生を対象にライフプランニングの体験セッションを提供
- マニユライフ・インパクト・フォレスト：環境の保護・保全および修復への取り組みで心身の健康維持と持続可能な社会の実現を通して、長寿社会を支える



長く、健やかに、そしてお金の不安なく生きるために。

長寿は、ただ年を重ねることではありません。

活力に満ち、必要なサポートを受け、可能性にあふれ、健康、そして経済的安心に満たされて生きることが重要です。マニユライフは2030年までに、グローバルで長寿経済インスティテュートに3億5千万ドルを投じ、研究や知見、イノベーション、啓発およびコミュニティ連携を世界規模で推進します。

日本は長寿社会の先進国でありながら、長生きを必ずしも前向きに捉えられていない側面があります。そこで私たちは、未来への安心につながる早期の金融教育を支える場を提供しています。

長寿経済インスティテュートについて

長寿経済インスティテュートは、研究・ソートリーダーシップ、提言、コミュニティ投資を通じて、人々がより長く、健やかに、そしてお金の不安なく生きられるよう行動を促すグローバル・プラットフォームです。3億5千万カナダドルのシグネチャー・コミットメントを基盤に、健康寿命の延伸とすべての人の金融レジリエンスの向上に重点を置いています。保障・退職後の生活設計プラン・資産形成のグローバル・プレーヤーであるマニユライフは、この変化をリードできる独自の立場にあります。同インスティテュートの活動は、長寿経済を育てる組織への投資、トップレベルの学術機関やシンクタンクとの研究連携、そして加齢に伴う社会課題への理解と行動を広げる知見発信（Thought Leadership）を通じて、マニユライフの「Impact Agenda（インパクト・アジェンダ）」を支えます。米国では「John Hancock Longevity Institute」の名称で展開します。運営は、マニユライフの経営陣およびグローバル・リーダーシップ・チームのメンバーで構成されるステアリング・コミッティが方針を策定し、カナダ／アジア／米国のパートナーや長寿領域の有識者からなる強固なエコシステムと連携して進めます。

詳細は [専用ウェブページ](#) をご覧ください。

マニユライフ生命について

マニユライフ生命は、カナダに本拠を置く大手金融サービスグループ、マニユライフ・ファイナンシャル・コーポレーションのグループ企業です。ブランドメッセージ「人生に、たしかな選択を。」のもと、生命保険による保障、退職後の生活設計、資産形成など、お客さま一人ひとりに合わせたソリューションを通じて、より良い未来に向けた選択を支援しています。当社は、長期的な経済的ウェルビーイングの実現に向けて、グローバルな専門性と日本市場に根差した知見を融合し、保障、資産形成およびその継承をサポートします。

当社に関する情報は、公式ウェブサイト (<https://www.manulife.co.jp>)、および LinkedIn アカウント (<https://www.linkedin.com/company/manulife-japan/>) をご覧ください。

マニユライフについて

マニユライフ・ファイナンシャル・コーポレーションは、世界有数の大手金融サービスグループです。マニユライフは、複雑な社会においてお客さまがより簡単に最適な判断をし、より良い人生を送るためのお手伝いをします。カナダのトロントに本拠を置き、カナダ、アジア、欧州ではマニユライフとして、米国ではジョン・ハンコックとして、個人、団体、企業のお客さまに金融アドバイスおよび保険商品をご提供しています。マニユライフ・ウェルス&アセット・マネジメントを通じては、世界中の個人・機関投資家・退職金制度加入のお客さま向けにグローバルな投資や金融アドバイス、退職金制度のサービスをご提供しています。2024年末現在、マニユライフは世界中で37,000人超の職員と109,000人超の営業職員および数千の販売パートナーを擁し、約3,600万人のお客さまに商品やサービスをご提供しています。トロント証券取引所、ニューヨーク証券取引所およびフィリピン証券取引所においては「MFC」の銘柄コードで、また、香港証券取引所では「945」で取引されています。すべてのサービスがすべての国と地域で利用できるわけではありません。

詳細は、<https://www.manulife.com> をご覧ください。